公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援西宮たんぼぼ		公表日		2025年 2月28日	
環境・整備・運営	1	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
		訪問支援に使用する場合の教員教材は適切であるか。	○		必要に応じて訪問先で使用できそうな視覚支援や、課題等をご紹介するようにしました。また、たんぼぼで意欲的なれた遊びやおもちゃも積極的に伝えました。	今後もたんぼぼでの支援を訪問先でいかにすることができるような教員教材を模索し、ご紹介していきます。	
業務改善	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令で定められた配置基準に沿って人数を配置することで支援の充実を図りました。	より良い支援ができるように、今後も利用数に応じた適切な職員配置をに対応してまいります。	
		3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員懇談を実施して個々での目標の設定を行い、振り返った際の達成度合いも考えられるようにしています。また職員の集まる会議にて目標共有や振り返りを実施する時間も設けています。	よりPDCAサイクルの効果を高めることのできる仕組みづくりを考え、支援が向上していくように努めます
業務改善	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員会議にて結果について共有し、職員同士で、事業所の強みをより活かす方法や、弱みに対してできる対策等を考える場を設けました。	随時保護者のニーズや意向を調査、把握してけるように努め、業務に反映させていきます。	
		5	従業者の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に個別面談を実施することで、意見の汲み取りを行っています。また、職員会議やクラス会議でも意見交換ができる場を設けています。	意見の出しやすい仕組み作りを今後も整えていくことで、意見交換のしやすい環境を作っていきます。
		6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		2022年度に第三者評価を行い、評価結果をもとに業務改善を現在も実施しています。	定期的な第三者評価を実施していき、さらなる改善に取り組んでいきます。
		7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修に参加したり、事業所での職員研修や、法人全体研修等の内部研修も行い、支援の質を高めるよう努めています。	今後も充実した研修の機会を設けていき、職員の資質を高めるとともに、療育の向上に努めます。
		8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	○		JSIRを活用して感覚に関するアセスメントを行うとともに、丁寧なモニタリング会議を経て、保護者に要望書を記載いただき、ニーズの分析を行っています。	アセスメントツールの検討を行い、より子どもたちのニーズをとらえ、個別支援計画に反映できるように努めていきます。
適切な支援の提供	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		子どもの状態をクラス会議にて共有するとともに、職員との「モニタリング会議」を実施することで適切な課題共有のもと、個別支援計画を作成しています	さらに広く職員からの意見を取り入れたり、日々の支援に関する共有方法等は、今後も検討をしていきます。	
		10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	○		訪問した際に都度対面またはお電話でのフィードバックを行うようにしており、訪問先の意向を伺うようにしています。	今後も丁寧なコミュニケーションを行うことで、訪問先の意向の把握を行い、連携を深めていきます。
		11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		担当者同士で計画内容を共有し、支援の方向性を決められるようにしています。	さらに広く職員に計画内容を共有できる方法を探り、内容を深めていきます。
		12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		JSIRを保護者およびスタッフで記載し、感覚統合の面からアセスメントを行うとともに、日々の支援記録から見える行動を分析、確認しています。	今後使っていけるアセスメントツールの再検討を行うことで、子どもの行動や状態をより詳しく適切に把握していきます。
		13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに記載されている内容を踏まえて個別支援計画を作成しています。	立てた計画を踏まえながら、ガイドラインに記載されている内容の理解をさらに深め、具体的な支援内容をせってしていきます。
		14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		担当者同士で計画内容を共有し、支援の方向性を決められるようにしています。	さらに広く職員に計画内容を共有できる方法を探り、内容を深めていきます。
		15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前に必ず、保護者との打ち合わせを行い、その日の訪問希望の内容を確認し、支援内容を理解した上で訪問、その後、担当の先生等とのフィードバックの中で、共有すべき事項や役割分担について確認をしています。	今後も保護者、学校園との連携を深くし、準備や打ち合わせの時間を大切にすることで、よりチームで連携をとって支援していきます。
		16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		訪問記録を必ず職員間で共有しており、状況の把握を行い、必要に応じて話す場を設けています。	今後も支援の共有を大切に持ち、気づきを次回にいかすことができるようにしていきます。
		17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	○		フィードバックをする際に、訪問先の意向を汲み取り、支援や助言ができるようにしています。また、必要に応じて見学方法をご相談しています。	今後も丁寧なコミュニケーションを行うことで、訪問先の理念や支援手法へ理解が深められるようにします。
		18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	○		毎回個別記録に支援の状況や様子を残り、次回の支援に活かせるようにしています	記録の取り方、記録用紙の書式等、より支援の改善に活かせる方法を検討していきます。
		19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半期に一度モニタリング会議を実施し、支援に携わる職員、管理責任者で見直しを検討しています	関わる職員の見立てや意見をより反映できるような仕組みや会議の開催方法等検討していきます

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	○	一番その子へ関わる時間の長いクラス担任が参加しています	さらに他機関と連携のできる方法や、会議での共有の方法を探っていきます
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	○	アレルギーやてんかん等をお持ちの児は、医療機関や主治医の情報を聞いておき、連携ができるようにしています。また、必要に応じて相談支援事業所と状況を伝えあったり相談をしたりしています。	地域の他機関とさらに連携の取れる方法を考えていきます。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	○	保護者がサポートブックを作成する際に、助言をしたり、就学後の学校の先生を交えた支援会議にて支援方法等の見解をお伝えしました。	今後もこどもたちがスムーズに移行ができ、保護者が安心できるように、就学先との連携を深めていきます
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○	○	外部研修に参加したり、他機関の見学に行ったりし、質の向上につながる機会を設けました。	今後も充実した研修や見学の機会を設けていき、支援の質の向上に繋げていきます。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○	○	西宮児童通所支援事業所連絡会へ参加し、研修や情報共有をしています	これからも地域の集まりや協議会へ参加していくことで情報収集や連携を行っていきます
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○	○	送迎時に保護者との情報共有を行い、療育の様子のお伝えや家庭や学校園での様子の聞き取りを丁寧に行いました。	ご家庭との連携をさらに深めることで、学校園等での生活全体に根ざした支援を実施していきます。
保護者等への説明等	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	○	保護者会を実施することで、保護者同士の交流を深め、こどもへの接し方を学ぶ機会を設けました。	次年度も引き続き保護者会を開催するとともに、ペアレントプログラムも実施していく予定です。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	○	契約時に運営規定や支援プログラム、利用者負担額等について説明を行い、変更時には都度ご説明、質問等あればその場でお答えしています。	支援プログラムや、その目的や意図等、より理解いただきやすい伝え方を考えていきます。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	○	○	初回の訪問では管理責任者が同行するようにしており、訪問先への理解を得るようにしています。	今後も事業の理解を深めるために、丁寧に説明をしていきます。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	○	日頃よりこどもの観察をこまめに行い本人のニーズをくみ取っていくとともに、送迎時に保護者の意思の聞き取りを行い、半期に1度「要望書」をご提出いただいています。	こども、保護者の意図を引き続き丁寧に汲み取っていくことで、よりニーズに合った支援が提供できるようにします。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	○	○	個別面談をする時間を設け、管理責任者とともにクラス担任も同席して丁寧に説明・同意を得るようにしています。	支援の意図や目的がより伝わり、ご理解を得られる伝え方を模索しています。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○	○	送迎時に保護者よりご相談をお受けした際に対応するとともに、半期に一度個別懇談の時間を設け、丁寧に話が聞けるようにしています。	今後もご相談の時間を大切に、子育てに必要な助言や情報提供を行っていきます。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	○	保護者会や保護者の集いを開催することで、保護者同士の交流を設けるとともに、法人イベントとして「発達を考える会」や「きょうだい児の集い」等を開催しています。	引き続き、交流する場を提供していくことで、保護者同士の安心できる繋がりを作れるようにします。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	○	送迎時に保護者とのやり取りの中で子育てに関するご相談に応じるとともに、必要に応じて別途時間を設けて面談を行っています。	保護者が気軽に相談しやすい雰囲気を作り、より保護者のお悩みに答えられるような仕組みを考えていきます。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	○	毎月療育の様子や開催行事の詳細をお伝えするお便りを発行するとともに、HPでこども様子を発信しています。	保護者にとって情報を得やすい方法は何かを探っていきます。また、公式ラインの導入を予定しています。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	○	契約時に個人情報についてご説明しています。また、写真の使用について、細かくアンケートを取ることでご意向に沿うようにしています。	個人情報に注意深く配慮していくとともに、必要な情報を発信できる方法を考えていきます。
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	○	学校やご家庭でのコミュニケーション方法を伺いながら、文字やイラスト、写真等、こどもひとりひとりにとって分かりやすいコミュニケーションの方法を実施しました。また、保護者に向けての発信も、お便りの配布に加えて必要に応じて個別でご説明をしています。	お一人おひとりに合うコミュニケーションの支援を探りながら、気持ちの発信を促すことで、成長に繋げていきます。また、より情報発信のしやすい方法を探ります。
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	○	○	訪問内容や、訪問先からのお話、保護者からのお話を記録に残し、職員間で共有し、必要に応じて担当者以外の職員や管理責任者とも相談し合えるようにしています	今後も専門的知識をふかめながら、職員間で連携をとっていくことで、訪問先からの相談に適切に応じられるようになります。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	○	○	毎回対面またはお電話にてカンファレンスができるようにしています。	今後も実施後のカンファレンスの時間を大切にしています。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	○	○	毎回対面またはお電話にて保護者へ支援実施内容を共有するとともに、それに対する保護者の意向を伺うようにしています。	今後も保護者への共有を丁寧に取っていくことで、意向により添った支援が実施できるようにします。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	○	契約時に個人情報についてご説明しています。また、写真の使用について、細かくアンケートを取ることでご意向に沿えるようにしています。	個人情報に注意深く配慮していくとともに、訪問先に情報を発信する際は、保護者の確認を丁寧に行っていきます。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	○	○	訪問後のカンファレンスにて、ご相談についての見解をお伝えしたり、情報の提供をしたりしています	今後も信頼関係構築を心がけることでより連携を深めていきます。

非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	作成した各マニュアルをもとに、子どもたちの避難訓練などを実施しており、その様子等を保護者へお伝えするようになっています。さらに、職員会議にてマニュアルの見直しや訓練を行っています。	マニュアルをHPにて発信する等、保護者への周知の方法を探っています。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	職員研修の場で災害や不審者対応等を学ぶ場を設けるとともに、定期的に訓練の実施を行っています。また、職員が順番で施設の安全点検を実施しています。	丁寧な安全点検を続けていき、気が付いたことや改善点を出し合っていくことで、より安全管理に努めます。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハットが起きた際に、都度振り返りの時間に再度起きない対策について分析を行うとともに、用紙に記載して次回の打ち合わせの際に共有ができるようになっています。	状況分析や、丁寧な周知を続けていくことで、今後も再発防止を図っていきます。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待に関する職員研修の場を設け、防止への意識や知識を高めるとともに、適切な対応ができるようになっています。	定期的に研修の場や、自身の姿勢を振り返る場を設けていくことで、日々意識を高く持てるようにしていきます。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	身体拘束に関する職員研修の場を設け、組織的に決定をする流れを整えています。	現在該当する利用者が+F38:G52いないため、実施はしていないが、今後やむをえない場合が出てきた際には、適切な流れで対応していきます。